

社会福祉法人サムス会 法人運営	
事業名	会務の運営（１．理事会 ２．監事会）
事業内容	１．理事会・・・法人における議決機関として開催 第１回理事会（平成２８年５月２５日開催） 第１号議案 平成２７年度事業報告 第２号議案 平成２７年度決算報告 第３号議案 平成２７年度監事監査報告 第４号議案 定款変更 第５号議案 諸規定変更 第２回理事会（平成２９年１月２７日開催） 第１号議案 定款変更について 第２号議案 評議員選任・解任委員会運営細則の決議について 第３号議案 新定款に基づいて評議員選任・解任委員の選出について 第４号議案 評議員候補者の推薦について 第５号議案 評議員選任・解任委員会の招集について 第３回理事会（平成２９年３月１０日開催） 第１号議案 平成２８年度補正予算（案）について 第２号議案 平成２９年度事業計画（案）について 第３号議案 平成２９年度当初予算（案）について 第４号議案 社会福祉法人サムス会定款の変更（案）について 第５号議案 評議員候補者の推薦について 第６号議案 評議員選任委員会委員の選出について 第７号議案 評議員選任委員会の招集について ２．監事会・・・法人における監査機関として開催 第１回監事会（平成２８年５月２４日開催） 平成２７年度事業報告及び会計資産関係の監査について

社会福祉法人サムス会 法人運営	
事業名	法人運営会議
事業内容	毎月の定例会の実施 月次決算等、経理の仕事、請求業務確認を定型化させる。 現場の課題問題点も含めた意思決定が、法人運営会議で決定できる。結果、集团的に意思決定が行われ、法人の運営体質を変える。 第1回（平成28年6月16日開催） ・事務所内職員の業務体制について ・事務所内体制について ・当直業務について ・総務（事務・運営）部の課題・問題点について 第2回（平成28年7月20日開催） ・医務、看護師のショートステイ利用者に関する看護業務内容（例：胃ろう、褥瘡やキズの処置、便摘、吸痰、バイタル異常時の相談・対応、薬の仕分け・確認等）についてと、看護師の勤務体制・人員について ・ケアマネ業務について ・オンコールマニュアルの作成について ・事務所内職員の業務体制について ・当直業務について ・売店常設について 第3回（平成28年8月3日開催） ・防犯体制について（入居者の金銭管理も含める） （事務所内緊急連絡体制） ・ショートステイ事業について ・8月中旬から特養職員のショートへの日勤応援について ・8月勤務、正職員夜勤回数6～7回の課題について ・8月1日からの職務分掌について ・電気使用料について ・介護収入について 第4回（平成28年8月13日開催） ・9月からの職員配置及び課題について ・時間外勤務について ・入居、利用の方々の個人専用の家電製品の電気代徴収について ・社会貢献事業担当職員について ・ユニットの課題について ・新入職員の指導方法について ・喫茶と売店常設について 第5回（平成28年8月16日開催） ・9月からの職員配置及び課題について ・給与規程について ・広報誌の発行について（仮称：花鳥風月だより） ・元気花火で元気になろう会について ・社会貢献事業担当職員について ・ユニットの課題について ・新入職員の指導方法について

社会福祉法人サムス会 法人運営	
事業名	法人運営会議
事業内容	第6回（平成28年9月7日開催） ・施設での看取りについて ・当直について ・ユニットの課題について ・新入職員の指導方法について ・売店、野菜販売について 第7回（平成28年9月21日開催） ・10月1日からの新職務分掌について ・新入職員の初日問題、研修問題 ・鍼灸事業について ・各種委員会について ・物品購入伺いについて ・台風等警報時での施設運営規定について ・節約対策について 第8回（平成28年10月5日開催） ・新入職員の初日問題、研修問題について ・ユニット費について ・節約対策について ・各種委員会について ・車椅子購入および備品について 第9回（平成28年10月19日開催） ・待防止マニュアル、苦情相談マニュアル、権利擁護委員会、第三者委員、サービス評価の実施について ・11月からの職員配置について ・事務所内職員への会議等の決定事項の周知について 第10回（平成28年11月2日開催） ・ショートステイ、デイサービス職員不足について ・書類及び金品等保管料、電気料負担、台帳入力の徹底と連携 ・事務所内保育所設置アンケートについて 第11回（平成28年11月18日開催） ・ショートステイ、デイサービス職員不足について ・28年度上半期財務諸表の分析について 第12回（平成28年12月6日開催） ・給与明細配布について ・勉強会の開催時間について ・家族様の面会時間について ・ショートステイについて ・薬局指定について ・介護事業所の先進的な取組事例について ・平成28年度日常生活支援（生活援助）養成講習会について

社会福祉法人サルス会 法人運営	
事業名	法人運営会議
事業内容	第13回（平成28年12月20日開催） ・1月職員体制について ・ショートステイについて ・デイサービスについて ・勤務体制について 第14回（平成29年1月11日開催） ・ショートステイについて ・海、次期ユニットリーダーへの内示 ・夜勤可能職員補充3名 ・2月、夜勤（5～6回）の応援依頼 ・ショート運営全体の方向性について ・デイサービスについて ・パート職員の補充（午前2名、午後2名 週6日） ・特養運営全体の方向性、職員配置について ・時間外勤務について ・公用車の追加について ・各種講習会等について 第15回（平成29年1月27日開催） ・ショートステイについて ・7：30～16：30の勤務時間帯について ・生活相談員について ・夜勤職員補充について ・デイサービスについて ・特養ケアプランについて 第16回（平成29年2月8日開催） ・ショートステイについて ・デイサービスについて ・職員配置について ・新入職員研修、入職式について 第17回（平成29年2月22日開催） ・28年度補正予算および29年度当初予算について ・職員配置について 第18回（平成29年3月8日開催） ・ショートステイについて（夜勤可能職員2名要望） ・デイサービスについて ・医務4月体制について ・28年度補正予算および29年度当初予算について ・新入職のタイミングについて 第19回（平成29年3月22日開催） ・3月24日の家族面談について ・新入職員研修について

社会福祉法人サマソ会 法人運営					
事業名	1. 人材育成 2. 地域福祉活動 3. 人事考課 4. 社会貢献活動				
事業内容	平成 28 年度は、「利用者・家族・職員の笑顔があふれる施設」の実現を目指すために、各ユニットは正規職員 5 人、もしくは正規職員 4 人とフルパート職員 1 名という構成で職員配置し、職員はゆとりを持って仕事に専念し、入居者・利用者に良質なサービスを提供していけるように努力した。 内部研修の全員参加と外部研修にも積極的に参加し、幅広い知識や柔軟な思考を培い、根拠に基づいた実践ができる人材育成を目指した。 1. 人材育成 1) 施設の要である人材の育成強化 ・内部研修 普通救命講習、身体拘束について、認知症、ポジショニング、感染予防、鍼灸治療について等 ・外部研修 介護施設で働く看護職のための事務者研修、喀痰吸引・人口呼吸器の取り扱いに関する実技研修、人材育成に関する研修、終末期ケアセミナー、難病コミュニケーション講座等 2) 長く働き続けられる職場環境づくり ・途中入職員に対する徹底した研修の実施 利用者一人ひとりとは、かけがえのない 1 人の人として大切にし、誠実な態度で対応することの基本姿勢の徹底。利用者個々の理解を深め、個別のニーズに合致したサービスが的確に提供できるよう、知識や技術の習得等の丁寧な研修 平成 28 年 11 月 1 日・・・9 名 平成 28 年 11 月 16 日・・・5 名 平成 28 年 12 月 1 日・・・7 名 ・臨床心理士の先生による 1 人 30 分のカウンセリングを 平成 28 年 11 月・・・16 名 平成 28 年 12 月・・・16 名 平成 29 年 1 月・・・12 名 平成 29 年 2 月・・・12 名 平成 29 年 3 月・・・12 名 計 68 名 3) 委員会 ・法人内部での委員会は、2 年目に入り各委員会の内容も充実してきており、委員会主催で、職員の講師による内部研修も実施できるようになり、職員の質も上がった。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>委員会名</th><th>内 容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>感染対策委員会</td><td> 第 1 回（平成 28 年 6 月 2 日開催） 吐物処理物品が業者からの注文であったため予算削減目的によりガラリヤ荘（6 月研修場所）の吐物処理セットを参考に 100 セットを作成する予定とした。 食中毒の時期となるため面会者から生ものの持ち込み対策をたて施設全体へ伝達 感染マニュアルのみなおし案がでて検討を始める。 </td></tr> </tbody> </table>	委員会名	内 容	感染対策委員会	第 1 回（平成 28 年 6 月 2 日開催） 吐物処理物品が業者からの注文であったため予算削減目的によりガラリヤ荘（6 月研修場所）の吐物処理セットを参考に 100 セットを作成する予定とした。 食中毒の時期となるため面会者から生ものの持ち込み対策をたて施設全体へ伝達 感染マニュアルのみなおし案がでて検討を始める。
委員会名	内 容				
感染対策委員会	第 1 回（平成 28 年 6 月 2 日開催） 吐物処理物品が業者からの注文であったため予算削減目的によりガラリヤ荘（6 月研修場所）の吐物処理セットを参考に 100 セットを作成する予定とした。 食中毒の時期となるため面会者から生ものの持ち込み対策をたて施設全体へ伝達 感染マニュアルのみなおし案がでて検討を始める。				

事業内容	第2回（平成28年7月7日開催） 当初の予定では、感染委員会は感染の流行時期でなければ2か月ときまっていたが、毎月に変更とした。 吐物処理セットを100名分作成準備にかかる講習衛生会を業者サラヤで行うか検討し立案。 鈴鹿中央病院にて感染症研修会（基本的な感染管理を講義、実技）に参加し施設の感染委員会内で伝達講習とした。 第3回（平成28年8月3日開催） 食中毒時の吐物処理のしかた 熱中症時の対応の仕方をテキストとともにDVD学習をした。 吐物処理セットが完成しユニットの各トイレの戸棚に配布。 第4回（平成28年9月7日開催） 感染マニュアルを作成するため厚生労働省の高齢者介護施設における感染対策マニュアルを参考に当施設用として作成しはじめる。 第5回（平成28年10月7日開催） 業者サラヤによる第1回公衆衛生会（インフルエンザやノロウイルスなどの感染症対策）を開催し講習とグループワークの演習をおこなった。 第6回（平成28年11月3日開催） 第2回業者サラヤによる衛生講習会を開催 臨時委員会を開き公衆衛生会の反省会を行った。 感染フローチャートを完成し感染マニュアルとともに施設全体に配布。 インフルエンザ予防接種を開始 利用者の方はユニット回診時に浜田医師より施行。職員は3回にふりわけ問診は浜田医師により実施は看護師とした。 流行感染症の予防対策としてユニットへの空気の入替えや利用者の方や職員への手洗いやうがいの指導をおこない、11月21日から全職員による出社時の体温測定を開始し37.5℃以上ある職員は出社許可しないラインをつくった。
------	---

事業内容	第7回（平成28年12月1日開催） 流行感染症予防対策を継続。 ポスターを作成し施設入り口と各ユニットの出入り口に掲示し家族への感染症予防対策として呼びかけを行い、玄関洗い場に含嗽用のコップを用意しマスク着用義務の協力を求めた。 利用者の方の外出時（受診など）にマスクの着用することを協力してもらった。又、感染拡大時の対策や面会方法も検討したが、一名インフルエンザを発症するも個室管理と浜田医師による診察処方にて拡大することなく治癒した。 冬期は、発熱者も多くインフルエンザ発症の見極めとして簡易インフルエンザ検査キットを施設で購入していただき38℃以上の方に対しキットにて検査を施行した。（利用者の方のみ） 第8回（平成29年1月5日開催） 流行感染症予防対策を実施継続。 桜の森白子ホーム周辺のインフルエンザやノロウイルスなどによる感染症の流行状況を確認するため三重県感染症情報センターのチェックを行った。 感染症発症者なし。 第9回（平成29年2月2日開催） 流行感染症予防対策を実施継続。 三重県感染症情報センターのチェック。 感染症発症者なし。 鈴鹿市より結核予防法のレントゲン撮影者の選定（入院歴のある方ははぶいた）し計画。 第10回（平成29年3月2日開催） 感染マニュアルについて、デイ、ショートでの感染症が出た場合や利用する家族が感染発症した場合について討議。 鈴鹿市より結核予防法により利用者の方のレントゲン撮影を依頼され3月3日に三重県健康事業センターにきてもらい実施し3名ほど要診察と返信あり。 来期年間計画をたてる 流行感染症が下火になってきたため3月31日をもって職員の検温、マスク着用の解除をした。
------	--

事業内容	委員会名	内 容
	事故防止委員会	第1回（平成28年4月21日開催） ひやりはっとの事故件数の統計を取り、グラフ化しまとめる。 服薬に関する事故が多い傾向にあったため、話し合い。服薬チェック表の作成を行い、実施。 第2回（平成28年5月19日開催） 各ユニット経過報告 各ユニットにて薬の管理方法が違うため、統一の徹底を図る。 第3回（平成28年6月16日開催） 各ユニット経過報告 利用者から職員への暴力について。 服薬に関する事故について。 配薬時・服薬後の確認や介助方法の改善等の対策。 利用者間でのトラブルについて。 各フロアのユニット同士でも情報交換を行い、発見した時には、内線等でユニットへ連絡する。 第4回（平成28年7月21日開催） 服薬事故について 各ユニットチェック表の活用について チェック表のフローについて 主任とNSにて相談し、出来上がり次第各ユニットに配布。 第5回（平成28年8月18日開催） 服薬事故防止について 配薬時、必ず1名分の薬を手にし、本人の前で氏名、日付を声にして読み上げてから服薬介助。口腔内の確認。 服薬直前に配薬ボックスから1包ずつ取り出す。 専用ゴミ箱を用意する。（服薬後の薬包を捨てる）ゴミ箱内の薬包に残薬の無い事を確認してから捨てる。 第6回（平成28年9月15日開催） 配薬時の服薬介助、口腔内の確認について。 専用ゴミ箱の準備について。 薬チェック表について。

事業内容	医務事故報告書について。 バイタル測定、P C入力について。 第7回（平成28年10月20日開催） 乾燥対策、皮膚の保護、かゆみ防止、加湿器の導入について。 夜間当直者への応援について。 状況の内容を明確に報告し応援を依頼する。 服薬の専用ゴミ箱設置について。 身体拘束委員を導入について。 第8回（平成28年11月17日開催） 身体拘束委員会併設となる。 身体拘束についての職員への勉強会を実施。 事前アンケートを実施。 勉強会日程 日時：1月後半、2月前半 時間：13:30～15:00（1時間半予定） 事前アンケート：12月15日の委員会時にアンケートの集計完了。 アンケートは、職員全員に必ず提出してもらう。 第9回（平成28年12月15日開催） アンケート集計結果について。 アンケートの結果を見ると、グレーゾーンについて判断が難しい内容が多く、委員会でも判断出来なかった。その内容については、上司と相談・または、役所に等に確認する事とする。 勉強会の日時1月24日（火）2月7日（火） 13:30～15:00 地域交流室 デイサービス職員対象に、2月中 17:30～実施 第10回（平成29年1月19日開催） 専門職の業務中の事故について。 ユニット緊急カンファレンスについて。 転倒予防のため衝撃吸収マットについて。 夜間の就寝確認について。 けが予防のために保護クッション、壁の保護材の張り付けについて。 第11回（平成29年2月16日開催） 勉強会の復命書について。 各ユニット対策について。 車椅子転倒軽減について。 ベッドからの転落の防止策について。
------	--

事業内容		徘徊のリスクについて。 第12回（平成29年3月18日開催） 委員会のあり方について。 特定の利用者事故報告書について。 身体拘束についての勉強会の実施。
	委員会名	内 容
	行事 ・給食委員会	第1回（平成28年4月14日開催） 4/4.5.6開催 お花見行事の反省を行った。ボランティアの方への指示が的確でなかった事、リクライニング車いすの準備が十分でなかった事が意見として上がった。 5月のこいのぼりパイ作りの日時や内容について打ち合わせを行った。食事アンケートを全利用者様向けに行い、次回の委員会までに栄養士が集計する事とした。厨房からのおやつ提供内容の検討、醤油・ソースのユニットでの保管方法、牛乳の提供方法について話合った。 第2回（平成28年5月12日開催） 5/6 こいのぼりパイ作りの反省を行った。ほとんどの利用者様が喜んで食べられたが、季節感を感じていただけたのか疑問に残る。 外出レクの際に医務も参加してほしいと施設長より意見あり伝えたが、医務より当日の状況や回診によって参加は難しいと返答あり。 相撲の星取り大会について検討したが、相撲に興味のある利用者がどれくらいいるか把握できておらず、どのように行っていけば良いか疑問が残り実施には至らなかった。職員の知り合いの相撲取りの方が施設を訪ねていただけないか検討することとなった。食事アンケートを集計し、意見を献立に反映する事とした。 第3回（平成28年6月9日開催） 相撲取りの方の来所について検討したが、料金がかかるとの事で見送りをした。施設行事として新たに開始された桜の森市場について、好評だったが開催場所が狭いので混乱したと意見あり。参加時間のローテーションを組んでユニットごとに参加してもらう事とした。ユニットによって目の前配膳を開始した。利用者が自分で言った分は食べきれ、会話

事業内容	が増えると言ったメリットがあった。 第4回(平成28年7月14日開催) 夏祭りについて打ち合わせを行う。家族への連絡として案内状を送付する事、食材の準備について、当日の役割について、ボランティアについて、必要物品について等話し合った。 夏季の水分摂取量増加の為、イオンゼリーの厨房から提供を開始する。自助食器のサンプルを購入する。 第5回(平成28年8月11日開催) 夏祭りの反省を行う。楽しかった、エレベーターが混雑した、喫食時の見守り不足があったとの意見が出た。材料費・売り上げの報告、使用物品の保管方法等を決定した。9月行事の敬老週間について打ち合わせを行う。9/22.24の2日間で大学よりボランティア学生が来られ、各ユニットにてレクへの参加を行う事を決定する。10月行事の開設記念パーティについて決定次第、委員長より全職員に報告する。パン粥のジャムが欲しいと意見あり、つけていく事とする。イオンサポートの提供忘れがあった為、毎日職員が提供するよう徹底する。 第6回(平成28年9月9日開催) 各ユニットにて敬老週間でレクについて話し合い、決定した。10月開設記念パーティにて昼食を寿司にする、14時より学生ボランティアによるハンドベル演奏を行う事を決定した。 食中毒予防の為、イオンサポート・個包装で期限記載のないもの(ジャムや佃煮)の当日消費を伝達した。 第7回(平成28年10月13日開催) 敬老週間レク、開設記念パーティについて反省を行う。11月行事の芋煮会について打ち合わせを行う。外で調理しデイフロアにて喫食する為、日曜日開催となる。自助食器について施設購入し、サンプルとして利用者が使用できる仕組みを作った。 第8回(平成28年11月10日開催) 芋煮行事について反省を行う。ボランティアに名札をつけていただく事で役割がわかりやすく、積極的に動いてもらえて良かった。食
------	---

事業内容	形態ごとに席を準備した方がスムーズだった。おにぎり・芋煮共に味は好評であったとの意見が出た。12月行事について23日学生ボランティアによるハンドベル演奏、24日クリスマスケーキ作りと子どもボランティアによる演劇を予定。イオンゼリーについてデイ・ショートも希望があり開始した。自助食器のお試しを開始し2名が購入に至った。 第9回(平成28年12月8日開催) 12月行事について打ち合わせを行う。多数の利用者が参加できるように、23日演奏会では学生ボランティアが各ユニットにて5回演奏していただけることとなる。24日演劇では、30分公演を2回実施していただけることとなる。ケーキ作りについて、材料は委託給食会社に準備を依頼した。嚥下の悪い方にはチョコムースで提供する事とした。1月行事餅つきについて話し合う。昨年はたがね餅であったが、今年は餅米のみでついた餅での提供とする。しるこ・雑煮の2種類で提供。 第10回(平成29年1月12日開催) ハンドベル演奏会についての反省を行う。利用者からは演奏が聞き取りにくかった、きれいな演奏が聴けて嬉しかった、しっかり練習されているのが分かった等の意見が出た。ケーキ作りについては、生クリームが多かった、2ユニット合同で行った部署は一体感がありとても盛り上がった等の意見が出た。餅つきについては、餅を食べている利用者から目を離した、餅が硬い、職員が餅つきの練習をした方が良い、おしるこが濃かった等の意見があった。嚥下の悪い方にはペーストの餅で提供したが美味しいと言われていた。次回は年末に行うようにしたい。2月行事の節分について打ち合わせを行う。鬼役の職員2名、3Fユニットから順に回っていく事とした。各ユニットで新聞紙を丸めたボールを豆のかわりに投げる事とし作成を依頼した。厨房の食器の減少があるのでユニットで見かけたら返却を呼びかける。 第11回(平成29年2月13日開催) 節分行事の反省を行う。異動したばかりの職員が多く、ボールの場所把握が出来ていなかった。時間が足りず居室にみえる利用者は
------	--

事業内容		全員回ることが出来なかった。3月ひなまつり行事について打ち合わせを行う。保育園の園児が歌・演奏の慰問をしてくれるので、希望利用者は全員参加していただくこととした。 第12回(平成29年3月9日開催) ひなまつり行事の反省を行う。誘導時に職員が会場にいなかった、後ろの方にいた方が見えなかった、長時間の座位が負担になった方がいた、園児と触れ合えて良かった、刺激になって喜んでいたとの意見があった。4月行事花見について打ち合わせをする。ほとんどの方が車いすで公園まで出かけるので、当日までの車いす点検・台数の確保を行う事を決定した。 平成28年度行事 ・4月 花見 桜の森公園へ出かけた。 ・5月 こいのぼりパイ作り おやつ作りのレクリエーションを行った。 ・6月 劇団花さつき ボランティアによる公演を行った。 ・7月 七夕 笹に短冊を書いて飾った。 ・8月 夏祭り 各ユニットでの出し物(わなげ、たこやき、ポテト、ヨーヨー釣り、かき氷、踊り、ネイルサロン)。 利用者だけでなく家族も参加していただいた。 ・9月 敬老週間 各ユニットで考えたレクに学生ボランティアが参加した(おやつ作り、合唱)。 ・10月 開設記念パーティ 学生ボランティアによるハンドベル演奏。昼食に寿司・天ぷらを提供した。 ・11月 芋煮会 外でテントを張り、大鍋で芋煮を調理した。外で飲食をした。 ・12月 クリスマス会 学生ボランティアによるハンドベル演奏、ケーキ作りを行った。 ・1月 餅つき 雑煮やおしるこにして提供した。 ・2月 節分 職員が鬼の仮装をして施設内を回り、利用者が豆(新聞紙を丸めたもの)を投げた。 ・3月 ひなまつり サラナ保育園より園児の慰問あり。楽器演奏と歌、踊りを見学した。	
------	--	--	--

事業内容		給食 ・食事のアンケート 特養・デイ利用者様対象に行った。 ・献立内容の見直しを行った。 ・食材の内容、切り方を見直しを行った。 ・水分補給の為にイオンゼリーの導入をした。 ・自助食器のサンプルを購入し、自力摂取への支援を行った。	
	委員会名	内 容	
	衛生委員会	1 回(平成 28 年 4 月 6 日開催) 労働安全衛生法の改正によるストレスチェック実施の義務づけに対して、実施方法・実施事務従者の検討を行った。 労基より指導のあった職員健康診断について、内容・価格検討を比較する為次回に資料を揃える事とした。 第 2 回(平成 28 年 5 月 11 日開催) 健康診断について日程を 7～8 月、夜勤者は 1～2 月予定とした。健診内容は法定で定められた項目であり、どの委託先も同一であった。職員が病院へ行くのではなく健診バスを利用することとした。ストレスチェックも健診と合わせて行う事とした。 ストレスチェックの結果で高ストレスと判定された場合、産業医が施設内で面談可能であると決定した。 衛生管理者による職場内巡視について、チェック項目について話し合った。 第 3 回(平成 28 年 6 月 1 日開催) 健診・ストレスチェックの委託先を決定した。衛生管理者による職場内巡視チェックリストを作成した。医務室不在時の施錠について徹底した。緊急連絡網の作成を行った。停電時の必要物品について話し合った。 第 4 回(平成 28 年 7 月 6 日開催) 健診の順序を振り分けた。AED の置き場所について決定した。温湿度計を購入した。施設全体の湿度が高く、エアコンの設定を見直した。停電時の懐中電灯は大学よりいただいたものがあり設置した。	

事業内容	第5回(平成28年8月3日開催) エアコン設定が25度と低く寒がっている入居者がいるとの報告を受け、設定について見直した。人事異動に伴い緊急連絡網が最新でない部署があったので作成を依頼した。 第6回(平成28年9月7日開催) 職員健診が終了し、産業医に結果用紙を渡し、コメントの記載を依頼した。高ストレス者が何名かおり、その中で産業医との面接希望があるかを確認する事となった。停電時に懐中電灯だけでなくロウソク等があった方が良いのではないかと意見が出たので購入検討する。合わせて非常食についても購入検討する。 第7回(平成28年10月5日開催) 高ストレス者の内、面接希望者がいた。人事異動による緊急連絡網の再作成を行った。 第8回(平成28年11月2日開催) 高ストレス者に対する面接終了、産業医より面接の結果、就業上の措置は必要ないとの結果であった。インフルエンザ接種について全職員が受けられるよう医務で振り分けをする事となった。避難訓練についての反省を話し合う。気温低下に伴い暖房使用が開始され、空気の乾燥しているので加湿器フィルターの点検依頼をする。 第9回(平成28年12月7日開催) 夜勤者の健診について、費用面から1日のみで行う事を決定する。職員のメンタルケアとして臨床心理士の先生との相談会を開始する。非常時の物品について、ガスコンロ・ランタンの購入、非常食の米とミキサー食の発注を行った。水と缶詰は買い出しに行くこととする。廊下にエアコンの設置が無いので、ユニットから特浴へ移動する際に身体が冷えてしまう事が問題に上げられる。現現在は毛布対応。加湿器についてはメンテナンスを行い使用開始している。 第10回(平成29年1月11日開催) 夜勤者健診と入居者健診を同一の業者で行うと価格が下げられることから検討を行った。湿度が低いので加湿器の設定を上げた。換気を行っていない部署があるので時間を決めて
------	---

事業内容

	行うようにした。防犯のさすまたの設置場所を決定した。 第 11 回(平成 29 年 2 月 8 日開催) 夜勤者健診、入居者健診を同一業者で行うこととなった。加湿器の設定を上げたが、実際の湿度が上がっていない。窓ガラスの結露・カビの発生があり対策を考える。 第 12 回(平成 29 年 3 月 9 日開催) 夜勤者健診終了したが、1 名体調不良により受診できず後日となる。全員が終了次第、産業医より意見記入を依頼する。臨床心理士による相談会を継続しているが、面談結果をまとめて報告いただけるよう施設長より依頼した。今後もいつでも職員が悩みを相談できるような体制づくりを目的として行っていく。窓ガラスの結露・カビについて換気を行う事で改善がみられた。それに加え、外気との温度差を無くすために暖房をつけたままにせず、入居者の起床前につけること、設定を高くしない事を決定する。
--	---

事業内容

2. 地域福祉活動

地域との連携は、ボランティアや地域の住民の協力を深めていき、開かれた施設を目指した。さらに、設置母体が医療系の大学である強みを生かし、最新の知識・技術との融合を図り、包括的・良質なサービスを提供していった。

鈴鹿医療科学大学生のボランティアや、地域の一般ボランティアも徐々に増えてきた。また、実習生の導入も定着してきており、6 学科の学生を受け入れ実習を行った。

実習生受け入れ状況（28 年度）

日 時	学 部	学 年	実習内容	人数
5 月 19 日	薬学部	1 年	早期臨床体験	4 名
6 月 2 日	薬学部	1 年	早期臨床体験	16 名
6 月 9 日	薬学部	1 年	早期臨床体験	16 名
7 月 26 日	医療福祉学科	1 年	見学実習	19 名
10/1 ・ 11/2 ・ 11/24・12/14 2/1・2/22・5/24 6/14	看護学科	3 年と 4 年	老年・在宅看護実習	計 16 名
11/2	薬学部	3 年	衛生薬学実習	20 名
12/5・12/7	薬学部	4 年	見学体験型	計 94 名
2/20~2/25	理学療法学科	3 年	初期臨床実習	1 名

2/20～2/24, 2/27 ～3/3	管理栄養 コース	3 年	臨地・校外実習	4 名
延べ実習生				190 名

ボランティア受け入れ状況（28 年度）

月	日	内容	ボランティア 学生	ボランティア 一般
4	1、4、5	お花見		16
6	25	劇団花さつき		15
8	6	夏祭り	43	15
9	19～24	敬老週間	44	
10	10	開設記念パーティ	21	
11	6	芋煮会	32	
12	23	クリスマス会	10	
12	24	ボーイスカウト慰問		7
3	3	ひなまつり		44
通年		傾聴ボランティア		12(延べ)
		合 計	150	109

3. 人事考課

・人運営会議→リーダー会議→ユニット会議の指令系統が円滑かつ民主的に進み、全職員がサムス会の職員として自覚と誇りを持って働けるように努力をしていった。

・日々の業務や会議がマンネリ化しないように、年 2 回の業務のふりかえりシートによる人事考課を実施した。職員は上司や部下という関係ではなく、お互いを仲間として認め合い、日頃からコミュニケーションを密にとり、何でもいえる環境であり、働くことが楽しい職場を目指した。特に、途中入職員にも、法人の理念から始まり、介護の基本、リスクマネジメント、ユニットケアについて、対人援助の基本、法人の諸規則の説明等の研修を徹底し、サムス会の職員の自覚を促した。縁があって入職してくれた人を大切にしていける風潮を全職員が身につけ、長く働き続けられる職場環境づくりを目指した。

・介護職員の宿命である腰痛の対処として、鈴鹿ロボケアセンターとの提携により腰痛予防に取り組み、腰痛による離職者をゼロとし、腰痛防止の器具を使っていることをアピールして求人応募者の増加を目指していった。

4. 社会貢献活動

日頃から地域の問題・課題に目を向け、行政や機関・施設・専門家・住民達との情報交換を行い、若年性認知症サロン「家族みまん。」は、RUN 伴に参加する等、確実に周知されるようになり、当事者・家族・市民の居場所となってきた。桜の森白子ホームが、地域から愛される社会資源の一つとなってきた。

ホリデー子ども広場は、子育て中の父親、母親には好評で、参加者の子どもたちも毎回楽しみにしている。しかし、参加の子どもたちの年齢がばらばらのため、プログラムの設定が難しいことと、活発な子どもが多く対応するボランティアはたくさんのエネルギーと体力が必要であり、ボランティアの数が少ないことが課題である。

家族みまん。事業活動内容報告書（28年度）

日	行 事 名	内 容	参加者 (人数)
4/10	定例会	午前：昼食づくり（筍ご飯等） 午後：卓球、バドミントン	対象者 15人 ボラン ティア 15 人
5/8	定例会 第4回定期総会	午前：昼食づくり（エンドウ豆ご飯等） カラオケ、手芸、トランプ、オセ ロ 午後：卓球、バドミントン	対象者 18人 ボラン ティア 18 人
6/12	定例会 （NHK ミュージッ クビデオに応募する ための練習）	午前：昼食づくり（冷やし中華等） カラオケ、トランプ、オセロ 午後：卓球、バドミントン、手芸	対象者 11人 ボラン ティア 19 人
7/10	定例会 （NHK ミュージッ クビデオに応募する ための練習）	午前：昼食づくり（麻婆なす等） カラオケ、手芸、卓球、オセロ 午後：ボイストレーニング	対象者 13人 ボラン ティア 21人
8/9	定例会 （NHK ミュージッ クビデオに応募する ための練習）	午前：昼食づくり（カレーライス等） カラオケ、手芸、卓球、オセロ 午後：ボイストレーニング	対象者 14人 ボラン ティア 15人
9/13	定例会 （NHK ミュージッ クビデオに応募する ための練習）	午前：昼食づくり（サンマの塩焼き等） カラオケ、手芸、卓球、オセロ 午後：ボイストレーニング	対象者 9人 ボラン ティア 19人
10/9	定例会 （NHK ミュージッ クビデオに採用決 定）	午前：昼食づくり（秋の彩り炊き込みご 飯） 午後：ボイストレーニング（ベートーベ ンの第九をドイツ語で歌おう！）	対象者 13人 ボラン ティア 20 人

11/13	定例会 (鈴鹿医療科学大学の碧鈴祭に参加)	午前：大学祭を楽しむ 昼食は模擬店で自由に食事をとる 午後：ボイストレーニング(	対象者 15人 ボランティア 18人
12/13	クリスマス会 (合唱、カラオケ大会、ビンゴゲーム等)	立食パーティ(グラタン、フライドチキン、オードブルの盛り合わせ)	対象者 14人 ボランティア 24人
1/8	定例会	午前：昼食づくり(手巻き寿司、雑煮) カラオケ、手芸、卓球、オセロ 午後：ボイストレーニング(ベートーベンの第九をドイツ語で歌おう！)	対象者 9人 ボランティア 20人
2/12	定例会	午前：昼食づくり(鍋4種類) カラオケ、手芸、卓球、オセロ 午後：ボイストレーニング(ベートーベンの第九をドイツ語で歌おう！)	対象者 13人 ボランティア 16人
3/25	遠足(三重県総合博物館)	午前：現地集合(博物館自由観覧) その後高野尾花街道に移動後昼食 午後：施設の自由見学・散歩	対象者 14人 ボランティア 10人

ホリデー子ども広場 参加者内訳表(28年度)

日 時	対象者	ボランティア (学生)	ボランティア (一般)	職員
H28年4月29日	8	1	2	6
H28年5月5日	5	2	2	4
H28年7月18日	10	3	1	4
H28年8月11日	6	7	2	4
H28年9月22日	7	1	1	2
H28年11月3日	6	15	1	2
H28年11月23日	9	8	1	3
H28年12月23日	6	3	1	3
H29年1月9日	7	2	0	2
H29年2月11日	4	9	1	3
H29年3月20日	5	9	0	5
延べ人数	73	60	12	38

社会福祉事業の運営	
事業名	介護老人福祉施設の運営
事業内容	1. 特養部門の取り組み 入居者80名が生活する中で、特養全職員は前年度と同様に本施設の基本理念である「利用者・家族・職員みんなの笑顔があふれる施設を目指します」～安心して、心豊かに過ごすことができ、みんなが利用したい施設～を念頭に置き、日々のケアにあたった。またユニットケアの特徴でもある家族と職員の関係・入居者と職員の関係・入居者同士の関係も出来つつあり、ユニットそれぞれで色々なカラーがではじめた。 また、職員一人ひとりの知識の向上、技術の習得にも力を入れ、毎月勉強会を行った。 ・定期的に行われるカンファレンスでは各専門職からのアドバイスや指導を受けた。介護の現場で必要不可欠な他職種連携を図り、全職員で入居者を見るという意識を持たせた。 ・各ユニット会議・リーダー会議・各委員会会議等を毎月開催し、議事録は誰でも確認できるように開示している。また、必要に応じて各専門職がユニット会議に参加しアドバイスをすることもある。 その他に、介護主任・介護副主任にて必要であると判断した場合、個人面談をし職員の悩みや相談を聞く時間を設けた。 ・ソフト面として 8・9月 サンアイ薬局による薬の勉強会 計38名参加 9・10月 認知症勉強会 計35名参加 10月 避難訓練 計13名参加・サラヤ感染症勉強会 計39名参加 11・12月 鍼灸勉強会 計39名参加 1・2月 身体拘束勉強会 計36名参加 3月 たんぽぽ薬局外用薬勉強会 計16名参加 上記の勉強会では、勤務や業務の都合上参加出来ない職員もいたが、特養としては約70%～78%の職員の参加となった。 家族や入居者からは安心・安全を求められる。職員は常に知識の向上・質の高い技術・深い洞察力を必要とされる。このような勉強会を通してそれらの向上に繋がった。 2. 機能訓練指導員の具体的取り組み ・個別リハビリの実施 入居者の主訴や身体機能に合わせて個別的なリハビリを実施し、疼痛軽減や日常生活動作能力の維持・向上を図る。同時に入居者の身体機能の評価・把握をする。また、リハビリをしながらコミュニケーションを積極的に図ることで、ご本人の不安や楽しみ等の聞き取りを行った。 ・機能訓練計画の作成・家族への説明・管理 上記個別リハビリにて入居者の身体状況や主訴等の把握を行い、三カ月ごとに計画書の更新を行った。また、家族に直接説明し同意を得ることで、リハビリテーションに対する理解を得た。 ・生活リハビリテーションの作成・管理 毎日の生活の中で、簡単な運動の取り入れや自立性を促した日常生活

事業内容	動作を実施することで、運動習慣の確保及び身体機能の維持・向上を図った。入居者の身体機能の変化に応じて、生活リハビリの内容の再検討を行った。 ・福祉用具の選定 利用者に合った車いすやクッション・靴等の選定を行い、日常生活を安楽に過ごして頂けるように努めた。また、施設の物品として本当に必要な物であるかの選定・管理を行う。施設の物品（リクライニング型車椅子・クッション・三角クッション・L字柵）は、本当に必要な方に使用して頂けるようその都度確認していった。 ・介護職員への指導 入居者の安全・安楽を意識した介助をすべての職員が行っていただけるよう、職員指導を実施した。また、職員の負担軽減が図れるような介助方法の検討を行った。 ・ポジショニング表の作成・指導 褥瘡・拘縮予防を図っていただけるよう、ポジショニング表の作成を行い、実際にユニット会議等の場で職員と一緒に説明しながらポジショニングを行うことで正しい方法の理解を得て、今後の介護に活かしていただけるよう努めた。 ・カンファレンスへの参加 身体状況やリハビリテーションの内容・経過を各専門職に伝えることで情報共有・目標の統一を図った。日常的には行っていないが、リハビリではこんなことが出来ているということを伝え、過介助の軽減を図った。 ・PT 実習生の受け入れ・指導 鈴鹿医療科学大学理学療法学科の学生の実習の受け入れを行った。見学実習（2/20～2/25）の間に、特養の特色や理学療法士としての役割・理学療法士として利用者と関わることの楽しさを伝えた。 ・SS からの相談（ポジショニング指導・機能訓練・福祉用具の選定） SS 利用者の身体状況の相談に乗り、SS の入居者に関しても必要に応じて機能訓練を実施した。福祉用具の選定や職員へのポジショニング指導を行い、安楽に過ごして頂けるように努めた。 ・HAL の管理・指導 介護支援機器である腰タイプの HAL の導入に関して、他の職員と協力して管理・指導を行った。ロボケアセンターと協力して、歩行補助具である足タイプの HAL の使用方法を学び、実際に使えるようになった。 ・カラオケ余暇の実施 月に一回のカラオケ大会の実施を他のメンバーと一緒に考え、利用者が楽しんでもらえるように配慮した。 ・食事介助やトイレ誘導の実施 ユニット職員が不足している際の見守りや介助を実施し、利用者の安全への配慮を行った。 3. 鍼灸治療サービスの取組 前年度において延べ特養の利用者 26 名の鍼灸治療を引継ぎ、2016. 4～2017. 3 の一年間、新規利用者 12 名に加え計 38 名（内訳：男 16 名、女 22 名。平均年齢：82 歳。平均要介護度：4. 2）に総計 894 回の鍼灸治療を行った。さらに、福利厚生の一環として、介護職員への負担軽減に繋げるため、鍼灸治療を希望する職員 15 名（内訳：男 3 名、女 12 名。平均年齢：47 歳）を対象に、サービスで月に 1～2 回の鍼灸治療も
-------------	---

事業内容	行った。 ・鍼灸治療の実状 施術対象利用者 38 名 特養 34 名（死亡 3 名、退所 2 名、治療中止 6 名を除き、現在は 23 名） デイサービス 2 名（治療中止 1 名を除き、現在は 1 名） ショート 2 名 職員 15 名（内訳：介護職 12 名、事務職 3 名） ・延施術総回数 利用者への鍼灸 施術総回数は 894 回 月平均 75 回、日平均 3.5 回。 職員への鍼灸（2017. 3～） 施術総回数は 15 回、一人につき 1 回（30 分/回）程度 ・各月の施術人数 施術対象者は 53 名 月平均 26 名（2016. 11 よりデイサービスでの鍼灸治療を導入、2017. 3 より職員を対象とした鍼灸治療を実施開始） ・施術対象の疾患およびその効果 利用者うちの 7 割が記憶障害、それ以外に疼痛・麻痺や筋力低下などの慢性疾患が多く見られた。それに対し、鍼灸治療により一部の方に非常に良い効果をもたらした症状も緩和された。また別の方では症状の進行を遅らせ、現状維持に役立っている。また、介助職員からも介護しやすくなったことが報告された。 職員は腰痛、肩こり、膝痛が多く見られた。鍼灸治療後は「楽になった」、「すっきりした」という声が多かった。 ・啓発活動 勉強会開催：施設開設してからの一年間（2015. 10～2016. 10）の鍼灸治療実績をまとめ、利用者・家族・職員にアンケート調査を実施、その評価を施設内で全職員を対象に勉強会を開催（2016. 11 と 2016. 12）した。 ・鍼灸学科ボランティア学生の受け入れ 2016. 12～2017. 1 鍼灸学科 1 年生 22 名を指導した。
-------------	---

利用状況

入居者数

(各月末)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
女	47	47	48	48	46	48
男	32	30	32	32	30	30
計	79	77	80	80	76	78
内、入院者	6	3	0	1	1	2

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
女	49	49	50	51	52	51
男	30	29	30	29	27	29
計	79	78	80	80	79	80
内、入院者	4	1	1	3	2	1

入居者の要介護度状況

(各月末)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
要介護2	1	1	1	1	3	3
要介護3	11	12	14	16	14	14
要介護4	43	39	40	38	38	40
要介護5	24	25	25	25	21	21
平均	4.13	4.14	4.11	4.08	4.01	4.01

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要介護2	3	3	3	3	3	3
要介護3	14	15	14	13	14	13
要介護4	40	38	39	40	40	43
要介護5	22	22	24	24	22	21
平均	4.02	4.01	4.05	4.06	4.02	4.02

特養の稼働率は97.5% 入院者は月平均約2名、平均介護度は4.05

入居者：2.16人／月、退去者：2.16/月

入退居の状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月
入居	女	1	2	1	0	0	2
	男	1	1	2	0	1	1
	計	2	3	3	0	1	3
退居	女	0	1	0	0	2	0
	男	2	3	2	0	3	1
	計	2	4	2	0	5	1
		10月	11月	12月	1月	2月	3月
入居	女	1	1	2	2	2	1
	男	1	0	1	0	1	2
	計	2	1	3	2	3	3
退居	女	0	1	1	0	1	2
	男	1	1	1	2	2	0
	計	1	2	2	2	3	2
備 考		《退居内訳》					
		死亡 女6 男8					
		長期入院 女4 男6					
		他施設 女0 男0					
		家庭復帰 女0 男0					
		その他 女0 男3					
		《平均年齢》					
		84歳					
		男女別 女 85.3歳					
		男 81.5歳					
		《入居待機者》					
		99人					
		(平成29年3月31日現在)					
開催年月日	行事名	行事内容					
H28.4.4～6	お花見	桜の森公園にお散歩					
H28.6.25	演劇公演	『劇団花さつき』					
H28.8.6	夏祭り	各ユニットで出し物(たこ焼/かき氷/ゲーム等)					
H28.8.9	ハーモニカ演奏会	ハーモニカ演奏会					
H28.9.10	花火鑑賞	白子花火をウッドデッキから見る					
H28.9.24	敬老週間	学生ボランティアに傾聴に来ていただく					
H28.10.10	開設記念パーティ	昼食にお寿司を提供					
H28.11.6	芋煮会	外で芋煮・秋刀魚・おにぎりの喫食					
H28.12.23	クリスマス	ハンドベル演奏会					
		各ユニットでクリスマスケーキ作り					
H29.1.6	もちつき大会	餅つき、喫食					
H29.2.3	節分	鬼退治					
H29.3.3	ひな祭り	幼稚園児との交流					

社会福祉法人サムス会 法人運営	
事業名	通所介護（デイサービス）の運営
事業内容	桜の森白子ホームの利用者は、リハビリに対しての満足感が高く、家族やケアマネにも高い評価を得ている。 平成 28 年 4 月からは、作業療法士 2 名体制になり、一層リハビリに力を入れてきた。既存の利用者の満足度は高かったが、11 月までは問い合わせ数は疎らであった。しかし 12 月から問い合わせ数が増加し、体験利用を経て本利用に繋がるが多くなった。 今まで取り組んできたことに対する外部の評価が上がってきたことと、口コミが広がってきたことが考えられる。 ・利用者の自由と尊厳を大切にし、それぞれの生きがいを見つけ、その人らしい暮らしが続けられるようなサービスを提供し、利用者が人生の主役であると感じられるようにサポートしてきた。畑の手入れ→種まき→野菜の成長を見守る→収穫→販売（青空市）地域にポスティング（青空市の宣伝）→報酬（利用者に還元）を実現する為、計画を検討し、話し合いを進めた。 ・利用者の多様化に対応でき、自ら選択できるように沢山のプログラムを準備した。手作業を好む方の作品づくりや、麻雀、料理、個別のリハビリ、物理療法等の導入。麻雀では、今までした事が無い利用者も参加されるようになり、新たな他者との交流に繋がっていった。また物理療法によるメドマーは、疼痛軽減・浮腫の軽減、リラクゼーションの効果があり、大変喜ばれた。 ・風呂に入れるからデイに来るのではなく、自宅でも自分で頭を洗えるように練習しましょうというように、職員は常に自立支援を念頭に置きながら支援してきた。その効果として、通所当初、ササッとしか洗身されなかった利用者が、しっかり洗身できるようになった。さらに、施設内外部の研修や講習会に積極的に参加し、斬新で幅広い知識と経験を吸収した。28 年度からは、作業療法士 2 名体制で、認知症者への回想療法を実施した。また認知症者にアプローチするレクリエーションの指導も、今後さらに心身ともにリハビリの満足度を高めていく。 ・地域の専門家およびボランティアとの連携を密にし、顕在化しづらい若年性認知症等を掘り起こし、認知症になってもその人らしい生活ができるようなプログラム（就労型、運動型、社会参加型）を提供するなど幅広い利用者開拓を行った。

事業内容

通所介護事業（定員 25名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
営業日数	26日	26日	26日	26日	27日	26日
利用実人数	19	18	18	23	23	27
利用延人数	164	214	222	237	249	273
1日平均	6.3	8.2	8.5	9.1	9.2	10.5

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
営業日数	26日	26日	26日	24日	24日	27日
利用実人数	26	33	36	41	40	43
利用延人数	303	362	405	430	411	463
1日平均	11.7	13.9	15.6	17.9	17.1	17.1

行事開催状況

開催年月日	行事名	行事内容
4月	お花見	近くの公園に桜を見に行く。
	お花見	神社にツツジを見に行く。
5月	料理レク	鯉のぼりパイ作り
	ドライブ	季節を感じるドライブ
6月	お花見	アジサイを見に行く。
7月	スイカ割り	フロアでスイカ割を行う。
8月	ドライブ	季節を感じて頂くよう海へドライブ
9月	RUN 伴	当施設他施設合同の行事に参加。
	料理レク	たこ焼き風ドーナツ作り
10月	料理レク	ずんだ餅作り
11月	料理レク	ずんだ餅作り
12月	料理レク	クリスマスケーキ作り
2月	節分	施設の行事に参加する。

稼働率は、48.3％ 一日平均12名

1月～3月は、稼働率69％ 一日平均17.3人

社会福祉法人サムス会 法人運営																																				
事業名	短期入所生活介護（ショートステイ）の運営																																			
事業内容	平成 28 年 5 月に短期入所生活介護が開始し、徐々に利用者の稼働率も上がり、リピーターも確保できた。しかし、12 月に職員の配置人数が難しくなり、質の高い介護の提供が困難になった為、1 ユニット（海）のみの事業を展開し、山ユニットのオープンは来年度に見送った。 ・利用者のニーズを十分に把握し、その人らしい暮らしが続けられるようなケアプランを作成し実践していき、自宅での生活スタイルを優先した。その上で、施設の機能を生かし、日常生活動作の維持向上に努めた。 ・常に家族・利用者の立場になって、何をもって困難ケースといえるのかを徹底的に分析し、高い専門性を身につけ、あらゆるケースに果敢に対応していった。 ・職員は笑顔を絶やさず、おもてなしの精神で利用者・家族と向き合う。入所期間中は安全を重視し誠心誠意で対応し、利用者・家族とは馴染みの関係を築けるよう努力することで、リピーター利用者を増やしていった。																																			
	短期入所生活介護（定員 20 名）																																			
	<table><tr><td></td><td>4 月</td><td>5 月</td><td>6 月</td><td>7 月</td><td>8 月</td><td>9 月</td></tr><tr><td>営業日数</td><td></td><td>31 日</td><td>30 日</td><td>31 日</td><td>31 日</td><td>30 日</td></tr><tr><td>利用実人数</td><td></td><td>18</td><td>10</td><td>8</td><td>8</td><td>8</td></tr><tr><td>利用延人数</td><td></td><td>99</td><td>138</td><td>175</td><td>293</td><td>241</td></tr><tr><td>1 日平均</td><td></td><td>3, 2</td><td>4, 6</td><td>5, 6</td><td>9, 5</td><td>8, 0</td></tr></table>		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	営業日数		31 日	30 日	31 日	31 日	30 日	利用実人数		18	10	8	8	8	利用延人数		99	138	175	293	241	1 日平均		3, 2	4, 6	5, 6	9, 5	8, 0
		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月																													
	営業日数		31 日	30 日	31 日	31 日	30 日																													
	利用実人数		18	10	8	8	8																													
	利用延人数		99	138	175	293	241																													
	1 日平均		3, 2	4, 6	5, 6	9, 5	8, 0																													
	<table><tr><td></td><td>10 月</td><td>11 月</td><td>12 月</td><td>1 月</td><td>2 月</td><td>3 月</td></tr><tr><td>営業日数</td><td>31 日</td><td>30 日</td><td>31 日</td><td>31 日</td><td>28 日</td><td>31 日</td></tr><tr><td>利用実人数</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>9</td><td>8</td><td>8</td></tr><tr><td>利用延人数</td><td>314</td><td>333</td><td>324</td><td>286</td><td>215</td><td>245</td></tr><tr><td>1 日平均</td><td>10, 1</td><td>11, 1</td><td>10, 4</td><td>9, 2</td><td>7, 6</td><td>7, 9</td></tr></table>		10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	営業日数	31 日	30 日	31 日	31 日	28 日	31 日	利用実人数	8	9	10	9	8	8	利用延人数	314	333	324	286	215	245	1 日平均	10, 1	11, 1	10, 4	9, 2	7, 6	7, 9
		10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月																													
営業日数	31 日	30 日	31 日	31 日	28 日	31 日																														
利用実人数	8	9	10	9	8	8																														
利用延人数	314	333	324	286	215	245																														
1 日平均	10, 1	11, 1	10, 4	9, 2	7, 6	7, 9																														
行事開催状況																																				
<table><tr><td>開催年月日</td><td>行事名</td><td>行事内容</td></tr><tr><td>7 月</td><td>料理レク</td><td>ベビーカステラ作り</td></tr><tr><td>8 月</td><td>夏祭り</td><td></td></tr><tr><td>9 月</td><td>料理レク</td><td>どら焼き作り</td></tr><tr><td>10 月</td><td>バーベキュー</td><td></td></tr><tr><td>11 月</td><td>料理レク</td><td>キャロットケーキ作り</td></tr><tr><td>12 月</td><td>料理レク</td><td>クリスマスケーキ作り</td></tr><tr><td>1 月</td><td>料理レク</td><td>お好み焼き作り</td></tr><tr><td>2 月</td><td>料理レク</td><td>チョコ作り</td></tr><tr><td>3 月</td><td>料理レク</td><td>散らし寿司作り</td></tr></table>	開催年月日	行事名	行事内容	7 月	料理レク	ベビーカステラ作り	8 月	夏祭り		9 月	料理レク	どら焼き作り	10 月	バーベキュー		11 月	料理レク	キャロットケーキ作り	12 月	料理レク	クリスマスケーキ作り	1 月	料理レク	お好み焼き作り	2 月	料理レク	チョコ作り	3 月	料理レク	散らし寿司作り						
開催年月日	行事名	行事内容																																		
7 月	料理レク	ベビーカステラ作り																																		
8 月	夏祭り																																			
9 月	料理レク	どら焼き作り																																		
10 月	バーベキュー																																			
11 月	料理レク	キャロットケーキ作り																																		
12 月	料理レク	クリスマスケーキ作り																																		
1 月	料理レク	お好み焼き作り																																		
2 月	料理レク	チョコ作り																																		
3 月	料理レク	散らし寿司作り																																		
随時 買い物、散歩を行っている																																				
1 日平均利用者：7.2 名 20 人定員でみた場合、稼働率は 36.3% 28 年度は 1 ユニットのみの稼働であったことから、1 ユニットでみれば稼働率は 72%																																				